



巡幸する昭和天皇 天皇は1946(昭和21)年1月1日、「人間宣言」を発してみずからの神格を否定した。翌月から、天皇は神奈川県を皮切りに全国をまわり、「人間的・平和的な天皇」を国民にアピールした。

「人間天皇」の巡幸 (東京書籍『図説日本史』より)

(表のページより)
いざ来いニミツ、マッカーサー！
すぐに日立市の日立工場に勤労動
員され、兎平(うさぎだいら)女子寮
に入寮した。毎日音波探知機を作っ
た：鉢巻きを巻いて「いざ来いニミ
ツ、マッカーサー」出でくりや地
獄に逆落とし」と歌いながら…
ある日、宮様が視察に見えたことが
あった。休日であったので臨時出勤し、
翌日が休みになったのだが、まさにそ
の日、工場に一トン爆弾が落ちた。私
たちは寮にいて命拾いをした。
昭和二十年 戦争が激しくなり父の
実家の小池(※南相馬市鹿島区小池)に再
疎開したが、すぐに終戦となり、私は
石岡高女に戻った。

天皇の地方巡幸で接待役に

昭和二十一年 私は高女の五年生
に進んだ。この秋、天皇陛下が地方
巡幸で石岡高女に視察に来られた。
私は接待役の一人に選ばれ、当日
は頭の先から足の爪まで清潔にする
よう言われて、私は宮内省の方の担
当になった。食事の後、陛下の残さ
れた野菜を見たが、セロリの後先が
残され、真ん中だけちよつと食べら
れたようだった。
私達の展示作品には天覧の印が押
され、お帰りのお土産にと、割烹室
で栗を何回も何回も磨いた。
昭和二十二年三月 旧制五年で卒
業した。

両親に守られて今の私がある

全く激動の青春時代で、まともな
授業は戦後の一年間だけだった。直
接空襲に合う恐ろしい体験はなかつ
たけれど、東京での食料難は厳しく、
お鍋を持って雑炊の行列に並んだり
した。母は衣類を食料に変えてくれ
た。本当に両親に守られてこそ、今
の自分があると思っている。

平和の有難さをしみじみと

男の孫が大学生になった今、戦争
中の出陣学徒の壮行会のニュースを
思い起こすと、平和の有難さという
ものをしみじみ感じているところだ
がある。(「はらまち九条の会」会員)

○文中の(※)の部分は、編集者が付記いたしました。

◇今年も1月10日、新成人に『憲法』小冊子を贈呈◇ 「ありがとうございます！」と新成人は明るく素直でした！

若者に、生活に生きている「憲法」、特に
「9条」の意義を理解していただくため、
1月10日成人式会場の「ゆめはっと」前
で、新成人に『憲法』小冊子を配布しました。

今年で3年目の贈呈になりますが、今年は
新成人360名に配布。事務局員と会員の平
野、木ノ下、菅野さんの9人で、「おめで
とうございます」と声をかけながら、晴れ着姿
の一人ひとりに手渡ししました。

ここ3年快晴に恵まれています、
「ゆめはっと」入口は日陰で、北風も容赦なく
吹きつけ、寒くて辛くて大変です。でも新
成人の明るい笑顔や「ありがとうございます」
の一言で寒さも吹き飛んでしまいました。

1月12日付『福島民報』相双版 ▶

憲法小冊子を
新成人に配布
はらまち九条の会
南相馬市のはらまち
九条の会は十日、「憲
法」小冊子を原町、小
高両区の新成人に配布
した。
小冊子は三十九年前
に旧原町市が全戸配布
したものと同会が復刻
した。憲法の内容を知
ってもらおうと、三年
前から新成人に贈って

「憲法」小冊子を配布
する会員



いる。原町区では成人
式会場の市民文化会館
前で、入場する新成人
に手渡した。